

医学系研究科保健学専攻(博士課程前期)看護学領域

◎=DP達成に対する寄与(貢献)度「大」 ○=DP達成に対する寄与(貢献)度「中」 △=DP達成に対する寄与(貢献)度「小」

科目	授業科目	履修年次	単位数	必修◎/選択○/選択△	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	
					知識・理解 高度な知識と技術により、医療の高度化に対応する能力を身に付け、専門職業人として活躍ができる。	コミュニケーション能力・協働力 リーダーとして、組織を管理・運営及び指導する能力を身に付けている。	論理的思考力 自身の研究テーマに対して、情報や知識を体系的・論理的に分析し、的確に表現できるプレゼンテーション能力を身に付けている。 また、研究テーマに沿った仮説に基づいた、検証を行える構成を準備し、論文としてまとめる、第三者へ説明をすることができる。	課題解決能力(問題解決力) 研究を進める上で発生する諸問題について、それを問題として認識した上で、解決に必要な情報を収集・分析し、その課題(問題)を精査に解決できる能力を身に付けている。	社会性・国際性 各専門職種の知識を生かし、地域医療の実践の場や、県・国の保健行政に参画できるような管理・運営能力を身に付ける。	倫理観 医療倫理、研究者倫理に関する医学倫理・看護学領域の研究を行うための必要な知識を身に付けている。また、研究者の基礎となる知的財産権、研究者の活動にともなう法律知識を身に付けている。	
共通科目	選択必修科目	医療倫理学特論	2	○	◎		◎	○		◎	
		看護倫理学特論	2	○	○		○	◎	○	◎	
		医療情報学特論	2	○	○			◎			
		医療コミュニケーション特論	2	○		◎			○		
		国際保健・医療特論	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		ヘルスプロモーション特論	2	○	◎		○	○	◎	○	
		看護学研究方法特論	2	○	○		◎	◎	◎	◎	
	選択科目	性差医療学特論	2	△	◎		○	○	△	○	
		遺伝医療学特論	2	△	◎			○		△	
		看護管理学特論	2	△	◎	◎			◎	◎	
		看護理論特論	2	△	◎	○		◎	◎	○	
		人間存在とライフステージ	2	△	◎	△		○	○	○	
		コンサルテーション論	2	△	◎	◎			◎	○	
		フィジカルアセスメント特論	2	△	◎			○			
臨床薬理学特論	2	△	◎		○						
専門科目	基礎・地域看護学	基礎看護学特論	2	△	◎	◎	◎	◎	○	◎	
		基礎看護学演習	2	△	◎	◎	◎	◎	○	◎	
		看護教育学特論	2	△	◎	◎	◎	◎	○	○	
		看護教育学演習	2	△	◎	◎	◎	◎	○	○	
		病態生理機能学特論	2	△	◎	△	○				
		病態生理機能学演習	2	△	○	△	◎	◎		△	
		地域看護学特論Ⅰ	2	△	○	○	○	○	◎	○	
		地域看護学演習Ⅰ	2	△	○	◎	○	◎	◎	○	
		地域看護学特論Ⅱ	2	△	○	○	○	○	◎	○	
		地域看護学演習Ⅱ	2	△	○	◎	○	◎	◎	○	
		医療行動科学特論	2	△	○	◎	○	○	○	○	
		医療行動科学演習	2	△	◎	○	○	○	○	○	
		臨床看護学	臨床治療管理学特論	2	△	◎			○	△	
			ストレスと危機理論	2	△	◎			○	△	
	クリティカルケア看護学特論Ⅰ		2	△	◎			○	△		
	クリティカルケア看護学特論Ⅱ		2	△	◎			○	△	○	
	クリティカルケア看護学特論Ⅲ		2	△	◎			○	△		
	クリティカルケア看護学演習		2	△	◎	△		○	◎		
	クリティカルケア看護学実習Ⅰ		3	△	◎		○	○	◎	△	
	クリティカルケア看護学実習Ⅱ		3	△	◎		○	○	◎	△	
	クリティカルケア看護学実習Ⅲ		4	△	◎		○	○	◎	△	
	がん病態生理学特論		2	△	◎	○	◎	◎	○	◎	
	がん看護理論特論		2	△	◎		△	△	◎	○	
	がん看護援助特論		2	△	◎	◎		○	○	◎	
	がん緩和ケア学特論Ⅰ		2	△	◎	◎		○	○	◎	
	がん緩和ケア学特論Ⅱ		2	△	◎	◎		○	◎	◎	
	がん緩和ケア学特論Ⅲ		2	△	◎		○	○	○	◎	
	がん緩和ケア学特論Ⅳ		2	△	◎	◎		△	○	◎	
	がん看護学実習Ⅰ		2	△	◎	○	◎	◎	○	◎	
	がん看護学実習Ⅱ		2	△	◎	◎	◎	◎	○	◎	
	がん看護学実習Ⅲ		2	△	◎	◎	◎	◎	○	◎	
	がん看護学実習Ⅳ		2	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	がん看護学実習Ⅴ		2	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	成人看護学特論		2	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	成人看護学演習		2	△	◎	◎	○	○	○	◎	
	精神看護学特論		2	△	◎	○	◎	○	○	◎	
	精神看護学演習		2	△	◎	◎	◎	◎	◎	○	
	母性看護学特論		2	△	◎	◎	◎	◎	◎	△	
	母性看護学演習		2	△	◎	○	◎	◎	◎	△	
	小児看護学特論		2	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	小児看護学演習	2	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	遺伝看護学特論	2	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
遺伝看護学演習	2	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
老年看護学特論	2	△	◎	△	○	◎	◎				
老年看護学演習	2	△	○	△	◎	◎	◎	△			
特別研究		10	◎	○		◎	◎	○	◎		

医学系研究科保健学専攻(博士課程前期)生体情報検査学領域

◎=DP達成に対する寄与(貢献)度「大」 ○=DP達成に対する寄与(貢献)度「中」 △=DP達成に対する寄与(貢献)度「小」

科目	授業科目	履修年次	単位数	必修◎/選択○/選択△	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6		
					知識・理解 高度な知識と技術により、医療の高度化に対応する能力を身に付け、専門職業人として活躍ができる。	コミュニケーション能力・協働力 リーダーとして、組織を管理・運営及び指導する能力を身に付けている。	論理的思考力 自身の研究テーマに対して、情報や知識を体系的・論理的に分析し、的確に意思で意思決定する能力を身に付けている。	課題解決能力(問題解決力) 研究を遂げる上で発生する諸問題に備え、それを問題として認識した上で、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その課題(問題)を導案に解決できる能力を身に付けている。	社会性・国際性 各専門種の知識をもち、地域医療の実践の場や、県・国の保健行政に参画できるような管理・運営能力を身に付ける。	倫理観 医療倫理、研究倫理に関する医学保健学領域の研究を行うための必要な知識を身に付けている。また、研究者の基盤となる倫理的態度、研究者の活動にともなう法律知識を身に付けている。		
共通科目	選択必修科目	医療倫理学特論	2	○	◎	◎	◎	○		◎		
		看護倫理学特論	2	○	○	○	◎	○	◎	◎		
		医療情報学特論	2	○	○	◎	◎					
		医療コミュニケーション特論	2	○	◎	◎		○	○			
		国際保健・医療特論	2	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
		ヘルスプロモーション特論	2	○	◎	◎	○	○	◎	◎		
		看護学研究方法特論	2	○	○	◎	◎	◎		◎		
		生体情報学研究方法特論	2	△	◎		○	◎	○	○		
		選択科目		性差医療学特論	2	△	◎	○	○	○	△	○
				遺伝医療学特論	2	△	◎		○			△
				看護管理学特論	2	△	◎	◎	◎	◎	◎	○
				看護理論特論	2	△	◎	○	◎	◎	○	○
				人間存在とライフステージ	2	△	◎	△	◎	○	○	○
				コンサルテーション論	2	△	◎	◎		◎	○	
				フィジカルアセスメント特論	2	△	◎		○			
臨床薬理学特論	2			△	◎	○						
専門科目	生体情報検査学領域			生体情報検査学	分子細胞解析学特論	2	△	◎		◎	◎	
					分子細胞解析学演習	2	△	○		◎	◎	
		細胞情報解析学特論	2		△	◎	◎	◎	◎	○	○	
		細胞情報解析学演習	2		△	◎	◎	◎	◎	○	○	
		病原体情報解析学特論	2		△	◎	○	◎	◎	○	◎	
		病原体情報解析学演習	2		△	◎	○	◎	◎	○	◎	
		遠伝情報検査学特論	2		△	◎		○	△			
		遠伝情報検査学演習	2		△	◎		○	△			
		検査診断情報学特論	2		△	○		◎				
		検査診断情報学演習	2		△	○		◎				
		機能情報解析学特論	2		△	◎	○	◎	◎	○	○	
		機能情報解析学演習	2		△	◎	○	◎	◎	○	○	
		臨床画像診断学特論	2		△	◎		○	○	○	○	
		臨床画像診断学演習	2		△	◎		○	○	○	○	
		病態応用検査学特論	1		△			◎	○		△	
		病態応用検査学演習	1		△			◎	○		△	
		再生医療・細胞療法学特論Ⅰ	1		△	◎				△	○	
		再生医療・細胞療法学演習Ⅰ	1		△	◎				△	○	
		再生医療・細胞療法学特論Ⅱ	1		△	◎				△	○	
		再生医療・細胞療法学演習Ⅱ	1		△	◎				△	○	
特別研究	10	◎	○			◎	◎		○			